

従来の発注者における工事監督業務では、品質管理（施工管理）について、工事の進捗に併せ現地にて紙での記録として実施していた。紙での記録は、担当者ごとに精度のバラつきがでたり、転記・管理、工事写真帳の整理といった本来の業務以外で工数がかかるという効率の悪さが課題であった。また、現地に赴く品質管理は、往復4時間の移動を要する点や出席者たちのスケジュール調整がつかないなど、業務効率面での課題も浮き彫りであった。

株式会社LiberawareとCalTa株式会社はハード・ソフト両面での強みを活かし、遠隔地から自由に閲覧可能なデジタルツイン基盤を構築した。

従来

- ✓ 紙中心の記録形態
- ✓ 現場まで赴く施工管理体制
- ✓ 監督員と施行会社のスケジュール調整困難

A printed table with multiple columns and rows, likely a construction management or inspection record. It has a header with some text and a main body of data.

導入後

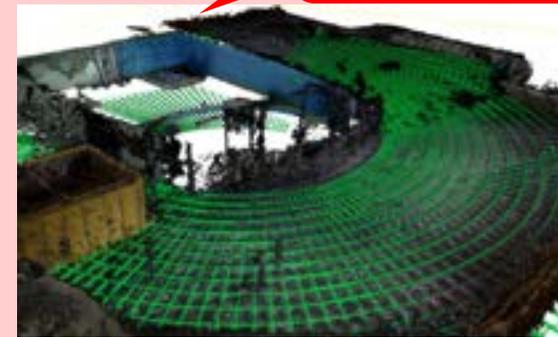
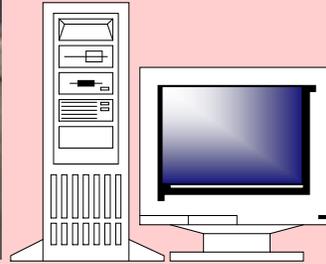
- ✓ 3次元データでの記録
- ✓ 遠隔地から自由に施工管理が可能に
- ✓ スケジュール調整が不要に



デジタルツインソフトウェア (映像→点群化处理)

自動で点群データを作成

3D-BIMモデルとも
自動で照合が可能



動画データ

確認・管理

工事現場

遠隔地



1日2回ドローンが
自動巡回を実施

撮影→動画データを
取得

現場に行かず施工管理

様々な現場の施工管理
が可能になり経験値UP

